

## 5 中西伊之助

フェイスブック掲載日 2021/7/26

我が町の歴史の中で、気がかりな戦前の宇治火薬庫や、宇治火薬製造所の歴史を調べているうちに、中西伊之助研究会編「農夫喜兵衛の死(新訂版)」(2007年9月初版つむぎ出版)にめぐり会った。私は、40年近く宇治の槇島、木幡に住みながら、ついぞ今日まで中西伊之助を知らなかった！その日のうちに「農夫喜兵衛の死」をむさぼり読んだ。新訂版の後記に現日本共産党京都府会議員水谷修氏が「我が故郷・宇治が生んだ巨人ー中西伊之助は、抑圧される労働者・農漁民に心を寄せる、気骨の人であった。多くの人に伊之助を知っていただきたい。」と結んでおられます。

中西伊之助は1887年(明治20)宇治槇島に生まれ、14才の頃、宇治火薬製造所で働いた経験のあるプロレタリア作家であり、戦後、1949年(昭和24)1月の総選挙で日本共産党の公認候補として立候補し当選を果たしています。そして1958年(昭和33)に波乱に満ちた人生を閉じました。

「農夫喜兵衛の死」は、1923年(大正12)5月に改造社から書き下ろしで上梓されました。日露戦争を背景に、個人ではいかんともしがたい小作人の置かれた境遇をリアルに描いた名作です。手塩にかけて育て収穫した米のほとんどを翌日には小作料として、喜兵衛と息子の伝作とで船に乗せ、宇治川を下って中書島の地主まで届けるのです。

文中の一節に、「右手の岸では、土砂を運ぶトロッコが、細いレエルの上を、労働者が二人ずつトロッコを押して行った。今度その一帯に、陸軍の火薬製造所が建てられると云うので、今、その地均工事をしているのであった。もう一・二年もすれば、そこでは、巨大な工場ができて、……。」

私は、かなりの飛躍を承知で述べますが、建設中の火薬製造所は、現在の京都市伏見区桃山南団地付近にあった火薬製造所分工場のことだと思うのです。槇島村の小作喜兵衛と伝作は「隠元の渡し」西詰めの宇治川左岸から小船をだし、右手に建設中の分工場を見たのである。

1894年(明治27)、日清戦争による火薬の需要急増に対応すべく、陸軍省は宇治火薬製造所を1896年(明治29)開所した。1904年(明治37)、日露戦争により、再び火薬の需要が増加したため、陸軍省は伏見町向島の水田を買収し分工場の建設を開始、1906年(明治39)3月、竣工しており、15才になった伝作は分工場の職工となった。

分工場へは1940年(昭和15)になって、木幡軍用線(宇治火薬製造所分工場への引込み線)が敷設された。私が今暮らしている北側を、かつては火薬列車が走っていたのです。



# 農夫喜兵衛の死

## 中西伊之助

新訂版

中西伊之助研究会 編

しんやまむし  
版

